

ねじりはちまき

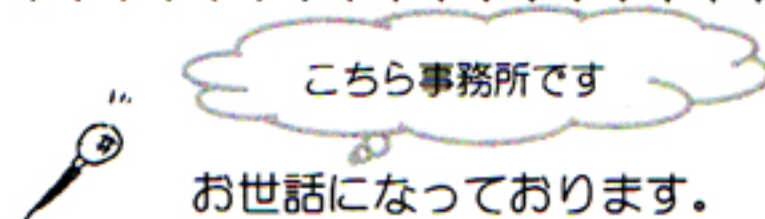
4月 卯月 清明 穀雨の月になりました。
4月5日 清明です。6日から15日まで「春の交通安全運動」です。
20日 穀雨で、29日 昭和の日で旗日になっています。

旧暦ではこの月を「卯月」といいます。文字通り卯の花（うつぎ、アジサイ科の落葉低木で白い花を咲かせる。）が咲く頃ということから、名付けられたという説が一般的だそうです。
また「卯月」の「う」は、「初」「産」の意味があることから1年の初めを表すという説や、「卯」が十二支の順番で4番目に位置するため、という説もあります。

新暦4月は桜が咲き、春たけなわの時期ですが、旧暦でのこの月からは夏が始まります。そのため、「花残月」とか「夏初月」などの異名がついています。

野も山も街も春色に染まろうとしているのに、花冷えの肌寒い日があります。ご注意ください。

幸田 常一



お世話になっております。
現在は郡山市の現場で住宅新築工事をさせていただいております。
また、これから工事をさせていただく現場の打合せや、図面や書類の作成などしております。

新天皇が即位されて、5月1日から元号が「平成」から「令和」に変わった。天皇一代につき一元号というのは明治以降のことである。江戸時代以前には天皇の交代がなくとも、大きな自然災害や疫病の流行があったときなどに改元されることも度々あったという。元号といえば、中国王朝に倣う形で日本のみならず、東アジア諸国にもみられたものだ。

さて日本の元号の歴史はどうなっているのだろうか。史書「日本書紀」によれば、大化の改新（646年）のとき「大化」が用いられたのが最初とされ、その後断続的に元号が使用されたと記録されている。だが本格的には、文武天皇5年（701年）に「大宝」と建元してからそれ以降元号が継続して使用されるようになったようだ。しかし、民衆は干支（えと）で十二支と十干を組み合わせた60周期の暦で事足りていたとのこと。元号が民衆に浸透したのは江戸時代以降といわれる。そして、明治時代になると明治憲法の下皇室典範に元号制定が明記されていたが、現憲法下ではそれが消滅し、元号制定を法律で定めるべしとの機運が高まって元号法が成立したのは昭和54年で、意外と最近のことである。ところで元号法は成立したが、元号の使用については国民に義務付けられていない。

ここで元号にまつわる話をいくつか取り上げてみたい。先ず「元号制定の条件」である。

「昭和大礼記録」に一木喜徳郎宮内大臣の考えとして記録されているところによれば、

- ①元号は国家の一大理想を表徴するに足るものとなるべきこと
- ②元号は古典に出拠を有し、その字面は雅馴（がじゅん）にして、その意義は深長なるべきこと
- ③元号は称呼上音階調和を要すべきこと
- ④元号はその字面簡単平易なるべきこと

が挙げられている。この考え方は現在も制定に当たり踏襲されているものと拝察する。そして字数は伝統的に二文字とされている（わずかに例外もあるが）。

ところで、元号に使用されている漢字はどのようなものが多かったのだろうか。「明治」の明は7回だが、治は21回と多い方だ。「大正」の大は6回だが、正は19回とこれも多い。「昭和」の昭は初めてで、和は19回と多く使われている。「平成」の平は12回で、成は初めてであった。では一番使われているのは何かというと、「永」で29回である。次いで「天」と「元」で27回、「治」が21回、「応」が20回と続く。こんな具合である。また、一つの元号の期間で最も長いのは「昭和」で62年と14日、最も短いのは「歴仁」で2ヶ月と14日であるが、他の元号の期間を見ると10年未満が以外に多いのである。

さて、日本の歴史で元号をもって語られる事柄にはどんなものがあるだろうか。先に触れた「大化の改新」があり、「大宝」も大宝律令で知られる。大化の改新（646年）は飛鳥時代のこと。氏姓制度を廃止して天皇中心の律令国家成立を目指す政治改革で、奈良時代に入るとその目指した律（今の刑法）と令（今の行政法・民法）がそろった日本初の律令として大宝律令が制定（701年）される。それと奈良時代には「天平文化」が開花する。天平年間（710-720年）は聖武天皇の時代で、21年も続いた。東大寺（奈良の大仏）や唐招提寺の建立など始め仏教文化が盛りをみせる。次に時代を少し飛んで、室町時代の末期に「応仁の乱」がある。応仁元年（1467年）に起こり、文明9年（1477年）までの約11年に及ぶ、史上最大の内乱である。争いは全国的に展開され、京都は壊滅的被害を被る。この乱は戦国時代の幕開けといわれる。それから江戸時代に入ると、有名なのは「元禄」であろう。元禄は17年続く。この時期「元禄文化」が開花する。絵画・小説・俳句・歌舞伎狂言など大衆レベルに浸透していった。また、赤穂事件が起こり、そしてそれは忠臣蔵として歌舞伎で演じられることになる。一方江戸期の「天明」は大飢饉に見舞われた。天明は8年間であったが、何とそのうち6年間が飢饉の連続という近世まれにみるものであった。それに浅間山の大爆発もあった。

それに、歴史的に忘れられないのは「安政」である。開国をめぐって反対派を封じるために大老・井伊直弼が採った政治弾圧、「安政の大獄」があった。吉田松陰を始め多数の逸材が処刑されたのであった。井伊直弼もまた江戸城桜田門外で水戸浪士等に暗殺される。もうひとつ、明治維新の時期の元号は何であったか。一世一元になる前の、最後の元号は「慶応」である。1865年から1868年の4年に亘る。この間大政奉還があり、江戸城無血開城があり、戊辰戦争があり、会津藩が破れてその直後「明治」と元号が変わる。

これまで元号との関係で歴史を垣間見てきたが、現在我々は元号をどれほど意識し、使用しているものだろうか。書類作成上は結構使用していることが多いと思われる。しかし、歴史上の出来事を理解するうえでは、どうも西暦で頭に入れることが多い。今日国際的な関係ではもちろん西暦であろう。例えば創立何年になるかを確認する時、元号では難しく、西暦に置き換えて計算することになる。西暦を使う場面が多くなっているのは確かである。

さて元号をめぐると話はこれくらいにして、元号と切っても切り離せない天皇の御存在について触れてみたい。明治から平成にかけてのことだが、先ず憲法上のお立場が変わっている。明治憲法では「統治権の総覧者」であったのが、現憲法では「国民統合の象徴」である。昭和天皇はその双方をご経験された。大変なことであったと思われる。振り返ると、明治から昭和（20年まで）にかけては戦争の時代であった。明治には日清戦争、日露戦争があり、大正には第一次世界大戦があり、昭和には日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争（大東亜戦争）があった。これら戦争の犠牲者も多数に上った。昭和の戦争での日本人の犠牲者数は310万人（市民も含め）といわれる。明治天皇が日露戦争、昭和天皇が大東亜戦争の開戦に際しての詔勅で「私は戦争を望んでいない」と苦渋の思いを付加されている。平成天皇はご在位最後の誕生日の記者会見で「平成に戦争がなく、安堵している」と述べられた。平成天皇のご足跡を拝すると、戦争を繰り返してはならないとの思いで先の大戦の戦没者への慰霊の旅をされたこと、そして象徴としての天皇のあり方として国民に寄り添うよう心を砕かれたことが伺われる。慰霊の旅としては、8月15日（終戦の日）の戦没者追悼式に臨まれるのを始め、広島・長崎の原爆投下の日（8月6日・9日）と沖縄戦終結の日（6月23日）には皇居内で祈りを捧げられる。平成7年には広島、長崎、東京下町（空襲の地）へと、そして苦難の道を歩んだ沖縄へは11回も足を運ばれたし、さらに海外では玉砕のあったサイパン、パラオ、フィリピンへも訪問され、深い祈りを捧げられた。平成天皇の平和への並々ならぬ思いを伺わせるものである。

また、象徴天皇として国民に寄り添うご足跡としては、自然災害があれば被災地を訪問され、膝をついて被災者を励まされるお姿は我々に焼き付いている。それほど欠かさず訪問されているのである。福島県には原発事故被災地ということもあり、3回訪れていただいている。また、平成天皇におかれては、日の当たらないところで頑張っている国民を励ますために各種施設や事業所なども度々訪問され、励ましていただいている。有難いことである。新天皇におかれてもこの平成天皇のお心は引き継がれていくことであろう。

以上元号を巡る話題を書き連ねてきたが、新元号「令和」に込められた願いを確認しておきたい。用いられた「令」は初、「和」は20回目である。出典は中国の漢籍によらず、日本の「万葉集」である。「初春の令月にして 気淑（きよ）く風和らぎ 梅は鏡前の粉を披（ひら）き・・・」による。人々が美しく心を寄せ合うことで、平和や文化を生み育むようにとの願い（首相の会見）が込められている。常に新しい挑戦が求められる。

日本海と妙高連山の展望台 信仰の山 米山さん

新潟県柏崎地方の民謡「三階節（さんがいぶし）」（*）に登場する「米山」は日本海に沿った北陸道を通る度に陸地側に見える“気になる山”である。

（*）三階節（大辞林）：[同じ文句を三回くり返すからとも、仏教の三界からともいう]・・・盆踊り唄・お座敷唄。・・・「米山さんから雲が出た」の歌詞で、花柳界のお座敷唄として唄われるうち一般にも広まった。

【今回登った山の概要】（○は日本三百名山）

・米山（○よねやま、992.5m）

上越地方と中越地方の境に位置し、日本海に面する米山 SA 近くの山。ガイドブックによると、「越後富士とも呼ばれ、地元では親しく“よねやまさん”と呼ばれる。夏場は登山口から老若男女誰でも 1 時間少々で登れる手軽な山、端正な四角錐の山頂部が良く目立つ」と表される。

この山には、平成 28 年 6 月、糸魚川市にある青海黒姫山（○おうみくろひめやま、1221m）を登った後、登山口で車中泊し登ったことがある。

今年は雪が少ないので、日本海に面していても米山は登れるのではないかと思ひ妻と二人で出かけることにした。

3 月 29 日（金）朝 5 時過ぎ出発。おにぎりの他、妻は前回の磐梯山と同じく毛布と湯たんぽを積み込む。新潟から北陸道を南下し、長岡を過ぎると左手前方に一際目立つ山、上部が白く、下部がまだらになっている山が米山だ。山容は自宅近くの大名倉山の形に似ている。柿崎 IC を降りると南西方向に霞む青空の下に真っ白な妙高連山が見えてくる。2500m 近い山群は迫力が違う。

登山コースは前回と同じ南面の水野林道コースを目指す。「米山登山口」の標識を頼りに車を進める。しだいに前回の記憶がよみがえる。

集落の外れにあった「米山登山古道ロードマップ」のカラーの大きな看板と「医王山密蔵院米山寺」（べいさんじ）の白い標柱を過ぎ、舗装の水野林道に入ると雪が残っている所がある。タイヤを前日に普通タイヤに替えたことを悔やむ。山側に 10cm 近く積もる雪を避けて、崖側の雪の少ない路面を 4W の勢いで何箇所か突破するが、途中進めなくなった所で断念し、緩い傾斜の広めのカーブで車を回し左側に駐車する。

妻は登山靴を持っては来たが、車で待っているとのこと。念のため石と落木を前輪に当てる。

9:15、ダメ元で行ける所まで行こうと思って林道を歩き始める。林道の傾斜とカーブは緩やかだが、山側や日当たりの悪い所、風の通る所では吹きだまりになっている。開けた場所で仰ぎ見ると山頂と思われる所は樹木がなく白い。

1時間歩いてようやく樹木のない開放感のある登山口駐車場に着く。雪がなければ20台くらいおけるぐらいの広さだ。雪は締まっていて積雪は1mもないだろう。前回食事をした日本海側を向いた木製のベンチは雪の中で、こんもりしているのもそれだと分かる。眼下に日本海の湾曲が霞んでいる。柏崎刈羽原発は同定できなかった。

西南方面遠くに妙高連山が里と低山を挟んでボリュームたっぷりに連なっている。左側に妙高山（みょうこうさん、2454m、百名山）が抜きん出ていてすぐに同定できる。連山の少し離れた右側に頸城（くびき）山群最高峰火打山（ひうちやま、2462m、百名山）の白い三角のピークがきれいだった。これらは平成16年10月に妻と計5人で山小屋に1泊して縦走した懐かしい山だ。

6本爪の軽アイゼンを着けて標識の所から樹林の中に入って行く。木々の間の道らしい所を10分ほど登ったが雪が深くなり、踏み跡も目印もないのでどちらに進むか迷ってしまった。

天気も良く、薬師堂（*）のある遮るもののない山頂からの展望は素晴らしいだろうと思ったが、ここで撤退することにした。雪崩の恐れもあり、複数で登れば行けたと思うが、この辺が単独行の限界だろう。

登山口まで戻り林道を引き返す。40分ほどで車に戻る。11:15。

（*）米山薬師堂（上越市ホームページ）：米山とはその名が示すように、秦澄大師の弟子・沙弥（さみ）が海を渡る強欲な船主から米俵を五輪山（今の米山）に向けて飛ばしたという伝説に由来する。米山薬師は田畑の豊作や雨乞い、人間・動物の守護、海上の安全に靈験あらたかと伝えられ、県内はもとより全国からも広く信仰を集めている。

帰途、前回はパスした米山寺（*）に寄ることにした。真言宗豊山派と表示されていて、自分の菩提寺と同じ宗派だった。

両側に太い杉の木が並ぶ幅一間半ほどの石段は130段あった。護摩堂の雪を防護するはめ板はまだ残っていた。妻はお堂のガラス戸を開けて上がり、お賽銭を入れ、立派な金色の薬師如来座像に拝礼した。何を願ったかは不明。

（*）米山寺（上越市ホームページ）：米山山頂からふもとへ約5キロメートルほど下ったところにある密蔵院護摩堂は、米山薬師の別当寺で、和銅5年（西暦712年）秦澄大師が開いたと伝えられている。・・・文化14年（西暦1817年）に再建されたもので壁面彫刻の美しさは上越地方随一と言われている。

柿崎ICから往路を戻り、往復500kmの山旅を無事終える。

平成31年4月 NO78 アンチ・エイジング 山旅遊人

<会社近況>

雪不足の冬を越し、春を感じる陽気が続く中、お庭のチュウリップが
つぼみをもち、ムスカリが紫色の花を付け、春到来！
と思った4月にぼたん雪。
気温も下がり、一気に冬に逆戻り。温度差が大きいこの時期、体調をくずさ
ないよう、十分にお気を付け下さい。

先月、内覧会を開催させていただきました。お陰様で数名のご来場をいた
だきました。ありがとうございました。

★連休のお知らせ★

4月28日(日) ~ 5月6日(月)までお休みさせていただきます。
大変ご迷惑をおかけいたします。尚、5月7日(火)は通常通りの営業
ですのでよろしくお願いいたします。

おいしい♡4月

「ゆでたまご」(*^_^*)

4月の旬食材ではありませんが、4月といえば、お花見・ピクニック→
お弁当→ゆでたまご…となるわけで今回はゆでたまごです。

色々なサラダに使えますし、甘辛く煮てもいいですね。サンドイッチ、
グラタンもおいしいですよ。お料理が楽しくなってきますね。

そろそろ、シロアリに注意！

4月～7月はシロアリの活動時期なので、羽アリを見つけたらシロアリ
か普通のアリか確認した方がいいですね。シロアリや被害箇所を見つけた
ら、被害の大きさを問わず早めに対処することをおすすめいたします。

.....

平成31年4月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話 0243-44-3816

<後記>

4月、ピカピカのランドセルを背負った
1年生を見かける時期ですね。ずっと飾
ってあったランドセルもいよいよ出番！
ワクワク、ドキドキしますが皆が嬉しく
てたまらない4月。 (事務員k)